

臨床報告

同一の弁証にて、鍼灸治療頻度などをあげることで、妊娠出産にいたった1症例

米山章子、ビッグママ治療室、神奈川、〒 250-003 小田原市東町 4-5-32

Clinical Report

A case of pregnancy and birth after increasing the frequency of the same pattern acupuncture and moxibustion treatment

Akiko Yoneyama, Bigmama-chiryoushitsu, 4-5-32 Higasi-cho, Odawara-shi, Kanagawa 250-0003, Japan

■要旨

32才の女性、腎虚肝鬱瘀血の証をたて、鍼灸治療を開始。同時に漢方薬の服用もお勧めし服薬開始。初診から3ヶ月後に一定の効果はみられるものの採卵数も少なく胚移植するも妊娠にいたらず。その後、同一の治療方針になるものの、鍼灸治療、漢方服用の頻度をあげ、睡眠などを増やしたことにより、全身状態がよりいっそう好転。体外受精時の採卵数そのものが増加し、胚移植し妊娠出産に至ったので、その詳細を東洋医学的に考察し、報告する。

キーワード：腎気 腎虚 鍼灸 妊娠 八味地黄丸

Abstract

Acupuncture and moxibustion treatment was commenced for a 32-year-old woman with kidney deficiency (*jinkyō*, 腎虚), liver depression (*kan'utsu*, 肝鬱), and static blood (*kuoketsu*, 瘀血) pattern. She was advised to, and did, simultaneously commence taking Kampo medication. She demonstrated certain effects of **in-vitro fertilization** three months after initial consultation, however, few ova were collected, and despite embryo transplantation, pregnancy was not achieved. Subsequently, although the treatment strategy was not changed, the **frequency of the Kampo, acupuncture and moxibustion treatments, and sleep time were increased, which in turn improved** overall condition. The number of ova collected **at the second in-vitro fertilization** increased and pregnancy was achieved after embryo transplantation. We report here this case and consider the details from an Oriental medical perspective.

Keywords: Kidney qi (*jinki*, 腎気), kidney deficiency (*jinkyō*, 腎虚), acupuncture and moxibustion, pregnancy, hachimijiogan (八味地黄丸)

■[症例]

32 才女性、主訴不妊。身長 158 センチ 体重 48 キロ。

30 才より妊娠を希望する。病院などを受診しても特に原因がないといわれている。31 才から専門クリニックにてタイミング指導を受けているものの妊娠に致らず。

■: 普段の状態について

昔から朝、季節の変わり目、肉体疲労時、睡眠不足の時に体調が悪化。

疲れると肩こりを感じ、運動すると治る。足のかかところが特に冷える。

食事は規則的で早食い、空腹感はある。食事をするとお腹がはる。食事のバランスはよいと自分では思う。間食は毎日。29 才までタバコ。大便是 1 日 1 回出きらない感じはない、バナナ状。小便是 1 日 5 回夜間尿なし。寝つきはよく眠りは深い寝起きが悪く疲れが残る感じがよくある。

初経は 14 才、周期は 32-30 日、期間は 6-7 日。30 才過ぎから低温期があがってきた。生理 2-3 日前から胸の張り、腰の痛み、下腹の痛みがあり生理がくると納まる。最近生理に親指大の塊や粘った膜が混じる。

■: 時系列の問診

20 代前半 朝に調子が悪い(現在まで) 低血圧と検査で言われる (血圧 90 / 60 mmHg)

24-28 才 とてもいそがしい仕事で深夜帰宅が多かった。疲れた

25 才 腰痛が特に気になり始める (現在まで)

28 才 結婚して転職 (忙しさが減った) 遠距離通勤となってしまった。

30 才 体調ががくっと悪くなったという自覚が出た。妊娠希望

生理周期が 28 日から 32 日にのびた

疲労感が残るようになった

30 才後半 転職 残業のない仕事。遠距離通勤

32 才 ビッグママ治療室受診

■ 切診(初診時)

舌 淡白 歯痕あり、まだらに瘀斑あり、舌裏怒脹あり、右に歪舌 潤

脈 全体に遅脈 右尺がやや浮いて硬い、右の関上やや硬い

心下つまりあり、脾募あり、肝の相火なし、裏肝の相火あり、居膠あり

下腕から臍にかけ動悸、

臍周 冷えつっぱり、気海やや抜け関元抜け

少腹急結左あり、時々突っ張ると自覚もある

右の内関陷凹、列缺こそげ、靈道陷凹きつい、足のふくらはぎ細絡あり

湧泉 冷え。右申脈 冷え。右の臨泣つまり。

三陰交こそげ 右>左。陰陵泉つっぱり 右>左。

下腿腎経全体に冷え。大椎冷え。陶道発汗風門抜け。

胆兪陷凹大きい。左脾兪陷凹。左胃兪陷凹 トップ。

右腎兪大きな陷凹。大腸兪冷え。

外関ゆるみ、復溜冷え

■ 病因病理

32 才の女性で妊娠出来ないということが主訴である

もともと朝に調子が悪く、腎の陽虚気味の素体であるが、二便、睡眠には大きな問題がなく、生理周期も 28 日型と大きな問題はなかった。

25 才からの仕事が非常に忙しく、深夜帰宅も多く、強く疲労感を感じるほどの状態であり、ここから腰痛もはじまっている。仕事の負担が腎気にかなり影響をあたえたものと思われる。28 才で結婚、非常に忙しい仕事はやめ、少し忙しいと感じる程度の仕事に変わったものの、新しい生活がはじまり、転居によって遠距離通勤になったため通勤が辛く腎気へと負担になり、30 才を過ぎてから生理周期が 4 日ほどのび、また疲労感が残るように感じる

ようになっている。腎気がまた一段明瞭に落ちてしまった。

32才、当院の初診時、二便に異常はないものの、足のかかかると感じる冷え、腎俞の大きな陥凹、大腸俞の冷え、関元の抜け、湧泉の冷えと腎気の不足は明瞭である。そのうえ、最近生理に塊が混じる、舌に瘀斑があり、右に歪舌、少腹急結や下腿の細絡など瘀血を生じ始めている可能性も大きい。もともと運動をすると肩こりが楽になるというように、肝鬱を生じやすい素体であった上に、肺気の弱りは大椎の冷え、陶道の発汗、列缺のこそげなどにあらわれ明瞭である。

腎気の弱り、肺気の弱りが明瞭であり、生命力の循環が悪くなり、このため、気の偏在がおこり、瘀血まで生じ、歪舌という形としての異常を生じ始めている可能性もある。今後、かなり大きな変化を起こす可能性を示唆していると思われる。

■ 弁証論治

腎虚 肝鬱瘀血

益気補腎 疏肝理気 活血化瘀

治療方針、まず第一に腎気をあげることを中心の課題とする。

瘀血や肝鬱は、腎気がたつことによって解消しない場合には手を加える。

患者さんへの治療方針の説明

- 1) 週に1度の鍼灸治療
- 2) 毎日の自宅施灸
- 3) 十分な睡眠
- 4) 漢方クリニックへ受診をし漢方服薬を相談する

■ 治療経過

初診時の鍼灸治療

左外関 三陰交 右臨泣 鍼+ミニ灸

左右復溜ミニ灸 中注、関元温灸

大椎温灸 腎俞、大腸俞

自宅施灸指示 三陰交 復溜 左外関、腎俞 大腸俞 関元

初診から3ヶ月患者さん自身の取り組み

- 1～2週間に1度程度の鍼灸治療
 - 2～3日に1回程度漢方（八味地黄丸）を服薬
 - 2～3日に1回程度自宅施灸をおこなう。
- 睡眠などは同じ（就寝時間1時）

3ヶ月後の体調の変化、不妊治療の結果

朝の目覚めがよくなった。いままで17日で排卵していたのが13-14日で排卵するようになってきた。夕方の疲れを感じなくなってきた。

体外受精、一つしか採卵できなかった。移植するも妊娠せず。

4ヶ月目から10ヶ月目の患者さんの取り組み

- 週に1度以上の頻度（ときに週に2度）で必ず鍼灸治療を受診
- 毎日自宅施灸をおこなう
- 毎日漢方もしっかりと規定量を飲む。
- 11時までには寝る（それまでは1時）

10ヶ月後の体調の変化、不妊治療の結果

朝の疲労感がなく、朝から動ける。

腰痛がなくなってきた。

体外受精 8 個採卵、5 個受精、非常によいグレードの受精卵が 2 つでき凍結。

移植し、妊娠出産。

10ヶ月後、体外受精採卵時の鍼灸治療

右の外関 曲泉 左公孫 鍼+ミニ灸

左湧泉ミニ灸 左右三陰交灸頭鍼

脾俞 腎俞、次膠

体外受精 凍結胚移植時の鍼灸治療

百会（7） 肺俞

外関、三陰交 鍼+ミニ灸

右三焦俞 左胃俞 腎俞 次膠

関元 温灸

妊娠時 6 w

左右 足三里 次膠 ミニ灸

臍 中注 大巨 関元 棒灸

右の胆俞 右脾俞 気海俞 鍼して温灸

[結果]

効果 (腎虚肝鬱瘀血)

	1~3ヵ月	4~10ヵ月
鍼灸、自宅施灸、漢方など	1~2wに1度の鍼灸 2~3日に1回程度漢方 (八味地黄丸) 自宅施灸(ときどき) 夜1時過ぎに寝る	週に1度以上の頻度で必ず鍼灸治療を受ける 毎日自宅施灸 毎日漢方もしっかり規定量を飲む 11時までには寝る
体調	朝の目覚めOK 排卵17日→13~14日 夕方の疲れない	朝の疲労感が違う 朝から動ける 腰痛がなくなってきた
妊娠	IVF →1個しか採卵できずET →妊娠できず	IVF8個採卵→5個受精 →2つグレード良い→妊娠→ <u>出産</u>

初診時から、1-2 週間に一度の鍼灸治療、毎日ではないが漢方を飲んで自宅施灸をしている。

1ヶ月後 人工授精 妊娠出来ず

3ヶ月後

1) 朝の目覚めがよい、

2) 排卵が 17 日ぐらいから 13 - 14 日になってきた

3) 夕方が疲れない

体外受精採卵 1 個しかとれず、妊娠出来ず。

これより、毎日自宅施灸、漢方は規定量を服用、週に一度の鍼灸治療、睡眠を 2 時間増やす。

10ヶ月後

1) 朝の疲労感が違って来た、朝から動ける感じ

- 2) 腰痛がなくなってきた
 - 3) 体外受精にて8個採卵できた、5つ受精でグレードの高い凍結胚盤胞が2つ出来た
- 1年後 凍結胚盤胞移植 無事に妊娠出産

■[考察]

初診時に腎虚肝鬱悪血、益気補腎を中心とする治療方針をたて、患者に鍼灸治療の頻度、ご自宅での養生灸、睡眠、漢方クリニックへの受診を提案。それなりにご本人がそのとき出来る範囲で3ヶ月程取り組んだ。その結果、ある程度の益気補腎となり、排卵周期が17日から13日へと短くなり、朝の目覚めがよくなる、夕方の疲労感が減ったなどの効果が出た。しかしながら、体外受精をおこなうも、1個しか採卵できず移植するも妊娠に致らなかった。益気補腎の効果により一定の体調の良性変化がみられたものの、妊娠に必要なレベルには到達できなかったものと思われる。

その後、ご本人と相談し、より治療の効果をあげるために同一の治療方針にて、鍼灸治療の頻度、規定量の漢方服薬、睡眠を充分とり毎日自宅施灸をするなどの患者側の丁寧な努力がおこなわれた。その結果、よりいっそうの腎気充実となり、3ヶ月目では、朝の目覚めがよい、夕方に疲れないというレベルが、10ヶ月目では朝から疲労感が抜け活動ができる腰痛を感じないという十分に腎気が持ち直したレベルとなった。体外受精においても、3ヶ月目と同じ刺激方法ながら採卵数の増加、良好胚の増加、妊娠出産へとつながった。ある程度の腎気の持ち直しをおこなっただけでは妊娠に到達することができなかったが、十分な補腎がなされたことで妊娠に到達することができ、無事な出産へとつながることとなったと思われる。

東洋医学的治療では、患者の治療への協力的な姿勢が必要とされる。このため、十分な治療方針の説明をおこない、鍼灸治療や養生法などを提案するも、患者によっては、目標の頻度、密度が到達できないことがある。それでも、治療方針が正しければある程度の体調の改善はみられ、必要な方向性への身体作りができ妊娠への期待が高まる。しかしながら、妊娠に必要な治療効果に到達しなければ体調の改善はできても妊娠にまでつながることが困難になっている場合もあると思われる。本症例では、患者との話し合いにより治療方針を変えず、治療の頻度密度をあげることで、養生法の徹底により、よりいっそうの体調の良性変化があり妊娠出産へとつなげることができた。

不妊治療は、ある程度治療効果が認められても、妊娠という具体的な結果に到達しなければ効果がなかったも同然である。本症例により、治療方針が正しくとも、治療の必要量が満たされなければ結果につながらないことがあることが示唆され、また治療の必要量を満たすには、患者側の相当な努力が必要であるケースがあると示唆された。

■初診時の鍼灸治療

- 1) 左外関(ステン15ミリ3番) 三陰交(ステン40ミリ2番)
右臨泣(ステン15ミリ3番) 鍼+ミニ灸
左右復溜、中注ミニ灸
- 2) 大椎温灸 腎俞、大腸俞(ステン50ミリ5番) 鍼して温灸
- 3) 関元温灸
自宅施灸指示 三陰交 復溜 左外関、腎俞 大腸俞 関元

少陽の絡穴外関、少陽胆の俞木穴臨泣(つまり)にて少陽の枢をたて、少陰腎の復溜(冷え)を使い陰陽の両極を立てることにより、腎の陽気をアップさせる。また外関は陽維脈を通じさせる作用も期待され陽気の立ち上がりを期待する。

三陰交が大きくこそげ復溜にかけて冷えていた。三陰交は女三里と言われ肝、脾、腎三陰の交わる場所である。子宮卵巣への特効穴的な効果も期待できる中注とあわせ使用した。

本症例は、大椎の冷え列缺のこそげなど肺気の弱りが明瞭で腎気へと負担になっていると思われるので、腎の経

金穴である復溜を大椎とともにつかい、陽気を中心に肺気を建てることで腎気への負担をとった。また子午の表裏でもある腎兪（大きな陥凹）-大腸兪（冷え）の組み合わせを使い腎気をたてた。陽気を力強くたて大きく益気とすることで瘀血への流れを作ることも期待できるのではないかとおもわれる。（大補元気）。

治療の順番として、手足末端経穴を一番先に使い、次に背部腧穴を使い、最後に関元に温灸を用い納めとした。自宅施灸指示は治療の度に切診に基づきおこなった。経穴反応の変化に伴って指示経穴は変更される。施灸の順番を大切に、体幹部をしっかりさることを目標とし、手足末端経穴から行い、背部、腹部は最後にするようにと指示した。

■体外受精 凍結胚移植時の鍼灸治療

- 1) 百会（直接灸7） 外関（ステン15ミリ3番）、三陰交（ステン40ミリ2番）+ミニ灸
- 2) 肺兪（直接灸10）
- 3) 右三焦兪（ステン15ミリ5番） 左胃兪（ステン15ミリ5番） 腎兪（ステン60ミリ8番） 次膠（ステン50ミリ5番）+温灸
- 4) 関元 温灸

右の三焦兪、胃兪腎兪次膠など背部腧穴を使い力強く補気し、百会や肺兪で気の動きをよくし、大きく気を動かし、最後に関元を目標にし子宮のある下腹に生命力を集め着床妊娠を期待した。

妊娠時 6wの鍼灸治療

足三里 次膠 ミニ灸

臍 中注 大巨 関元 棒灸

右の胆兪 右脾兪 気海兪 鍼（ステン15ミリ5番）して温灸

妊娠してから、脾気落ちが明瞭でありこそげのきつくなっている左右の足三里にミニ灸。

しかしながら手足経穴は妊婦であるので深追いはせず1回のみ。

腹部は、中注、臍、大巨、関元を10分程かけて棒灸。一点ずつを丁寧に温補した。

背部腧穴は、同じく脾気落ちが明瞭な脾兪を中心に胆兪、気海兪、次膠を使い、補気し関元におさめた。

以降、妊娠初期には週に1、2回、その後は週に1回のペースで鍼灸治療を継続。

無事に安産にて3000グラムオーバーの赤ちゃんを出産。

■[結論]

本症例では、同一の治療方針にて鍼灸治療養生をおこない、初診から3ヶ月後ある程度の体調の改善はみられたものの妊娠出来ず。その後、同一の治療方針にて、治療頻度、患者の養生をおこない十分に腎気がたち妊娠一出産に至った。不妊治療の効果を出し結果を出していくには、治療頻度を高くし濃密な治療を行い患者側の養生も必要であると考えられた。今後も症例を重ね検討を続けたい。